救急医学

［講義］　第２学年　前期　必修　1単位

《担当者名》○ 才川 悦子 saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp 浅井 悌(非常勤講師) 松田 律史(非常勤講師) 榊原 健一

【概　要】
言語聴覚士として、救急医学の基礎を理解し、院内および訪問リハビリテーションにおいて必要な救急処置を実践するための基礎を学ぶ科目である。救急体制や救急時の評価の方法、トリアージ、一次救命処置について理解を深め、医療従事者に必要な一次救命処置の手順を習得する。

【学修目標】
＜一般目標＞
救急医療システムの構造と救急医学の基礎理論を理解し、言語聴覚士として病院内や訪問リハビリテーション等の現場で遭遇しうる急変事態に対し、病態生理に基づいた適切な判断、一次救命処置（BLS）の実践、および情報の伝達を実践できる能力を習得する。
＜行動目標＞
1．日本における救急医療体制および院内救急の体制および連携を説明できる。
2．ABCDEアプローチを用い、バイタルサインを評価し、意識障害を評価し、救急要請の判断ができる。
3．一次救命処置（BLS）が実践できる。
4．言語聴覚士として対応が必要な救急疾患について適切な初期対応について説明できる。
5．言語聴覚士として必要な吸引について実技に応用できる知識を身につける。
6．医療人として必要な標準予防策を説明でき、実践できる知識を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	救急医学総論	チーム医療としての救急医療，救急医療体制，病院前救護，診療体制，法的諸問題について理解する。	松田 律史(非常勤講師)
2	救急診断	バイタルサインの評価、ABCEDアプローチ、緊急性の評価、トリアージなど救急医療の診断の基本について学ぶ。	浅井 悌(非常勤講師)
3	救急疾患1	ショック、意識障害（JCS、GCS評価）、頭痛等の具体的な救急疾患に対する救急対応について学ぶ。	松田 律史(非常勤講師)
4	救急疾患2	頭痛，熱中症，低体温症等の具体的な救急疾患に対する救急対応について学ぶ。	松田 律史(非常勤講師)
5	気道管理と標準予防策	嚥下訓練等において言語聴覚士として必要とされる気道管理（気管吸引）について学ぶ。また救急対応時を含め、標準予防策（スタンダードプリコーション）の概念を理解し、衛生管理の実践について学ぶ。	才川 悦子
6	一次救命処置（理論）	医療従事者としてBLS（一次救命処置）を遂行する上で不可欠な、心停止の3つの病態（心静止、心室細動／無脈性心室頻拍、無脈性電気活動）の理論的背景と、それぞれの判断基準を学ぶ。また、呼吸停止（死戦期呼吸など）について識別方法など理論的背景を学ぶ。	松田 律史(非常勤講師)
7 ～ 8	一次救命処置（実践）	医療従事者としてBLSの手法を理解し、BLSに必要な方法（心停止、死戦期呼吸の判断、CPR、AED等）を学ぶ。また、BLSの標準的な手技（心停止、死戦期呼吸の判断、CPR，AED等）の実践を学ぶ。	浅井 悌(非常勤講師) 才川 悦子 榊原 健一

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】
授業内で指定されるレポート（30 %）

授業内でおこなう課題への取り組み状況（70 %）

※ 定期試験は実施しない。

【教科書】
教科書は使用しない。授業内で資料を配布する。

【参考書】
日本救急医学会 監修，標準救急医学 第5版，医学書院．2013

【備考】
授業ではLMSとして、Google Classroomを用いる。Google Classroomでは以下のことをおこなう。
・授業資料の配信
・授業各回の理解度のチェック、質問の受け付け
・質問の回答
・学生相互の意見交換
授業終了後に、リアクションペーパー（Google Form）の提出が必要である。

【学修の準備】
予習は、授業資料をもとにわからない概念や用語について事前に調べる（80分）。
復習は、授業で指示された課題を実施し、授業内容についてまとめること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
DP2．言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】
才川 悦子（医師）， 浅井 悌（医師），松田 律史（医師）

【実務経験を活かした教育内容】
耳鼻咽喉科医師（才川）および救急救命医（浅井，松田）としての医療機関での実務経験をもとに、救急医学における体制、評価、処置の実践をチーム医療の枠組みで理解ができ、また、医療人、言語聴覚士として、一次救命処置が実施でき、臨床において有効な救急対応ができる能力を涵養するための教育をおこなう。

【その他】
この科目は主要授業科目に設定している